

加賀藩の洋学に貢献した和蘭語辞書

Dutch Dictionaries Contributing for the Development of Western Learning
in Kaga Clan, on medical and military science and foreign languages.

金沢大学名誉教授 板垣英治

加賀藩は「天下の書府」と新井白石に云われたように、数多くの和漢洋書を収蔵していた。これらの書籍のうち和漢書は前田家の文庫の名前をもとに造られた東京の財団法人尊経閣文庫にその殆どが保存され、調査・研究が行われ、その出版物も多数ある。一方、洋書は金沢に残され、本学附属図書館、同医学部分館、石川県立図書館、石川県立金沢泉丘高等学校図書館、金沢市立図書館、財団法人歴史博物館成巽閣等に分散して架蔵されている。これまでには部分的な洋書目録—例えば金沢大学医学図書館の古醫書目録¹⁾、蘭書目録²⁾など—が作られたが、全洋書目録は作られたことはなかった。また、加賀藩由来の古書の展示会—例えば「加賀洋学展」(金沢市立図書館)³⁾、「蔵書展金沢大学の源流」(金沢大学資料館)⁴⁾—でも、代表的な一部の書籍に限られて特定分野の書籍の展示はなかった。この程、これらの図書館に架蔵される加賀藩旧蔵洋書の調査を行い、その全書籍資料の目録の作成を行った。藩政期に作成された洋書の部分目録—例えば「壮猷館目録」—はあるが、全洋書に関するものは作られていない。そのために、本調査は明治17年に文部省への調査報告の形で作成された「明治17年石川県編纂教育沿革史料第九本蔵書目録」⁵⁾を一つの基本台帳とした。これは藩政期に最も近い時期に作成された目録である。また、石川県専門学校が第四高等学校に移管される時に作られた「旧石川県専門学校敷地及資産引継目録」⁶⁾に記載の洋書目録も参考資料とした。ところが、この目録には加賀藩の医学館が所有していた書籍は記載されていない。また、医学館で作られた「書籍目録」⁷⁾は和漢書しか記載されていない。この関係書籍を調べると、明治21年から第四高等学校医学部で作成された「自明治21年度至明治23年度図書原簿」⁸⁾には、医学書数冊が記載されているのみである。結論から先に云えば、医学書の古い目録は全くなく、昭和51年に編集された「金沢大学医学図書館の古醫書目録」¹⁾に記載の1870年より以前に出版された書籍を抽出して、その現存する書籍を直接調査した。従って、この目録の作成前に紛失した書籍の情報は含まれていない。この調査の結果をまとめたものが表1。「加賀藩旧蔵洋書数の集計」である。この表で初めて、旧藩に架蔵されていた洋書の全数と各分野別の書数および言語別書数が明らかになった。

表1. 加賀藩旧蔵洋書数の集計

登録番号	分類名	現存数	購入数	未確認数	現存の言語別内訳							
					オランダ書		フランス書		ドイツ書		英書	
					現存	購入	現存	購入	現存	購入	現存	購入
1001-	倫理・哲学・宗教・教育	14	14	3	0	0	10	10	0	0	4	4
1101-	政治・法律	15	15	5	0	0	4	4	0	0	11	11
1201-	経済・社会	6	6	6	0	0	0	0	0	0	6	6
2001-	歴史	63	69	17	9	9	11	13	0	0	43	47
2101-	地理・地図	39	41	9	6	6	4	4	0	0	29	31
3001-	数学	24	33	17	5	5	1	1	0	0	18	27
3101-	物理学	17	17	3	7	7	2	2	0	0	8	8
3201-	化学	46	47	0	26	27	6	6	1	1	13	13
3301-	生物学	31	31	3	31	31	0	0	0	0	0	0
3401-	地学・天文学	11	12	1	2	3	0	0	0	0	9	9
4001-	医学	131	188	—	121	176	5	5	2	4	3	3
5001-	兵学	247	280	35	75	77	37	37	2	2	133	164
6001-	言語学・文学	34	35	14	4	4	4	4	0	0	26	27
7001-	辞書	54	62	17	36	43	6	6	0	0	12	12
7101-	辞典	84	93	4	51	59	3	3	0	0	30	31
	合計	822	953	134	376	447	102	105	5	7	336	383

注：正確にはこの数字は全書籍数を表していない、その原因は医学書関係の基本データが無いからである。
 全数に近い値である。未確認書籍は「蔵書目録」には記載されているが、現在、書籍の原名が確認出来ないものである。辞典の重複記載を除いた現存数51、現存数合計783、購入数63、購入数合計913冊となる。

この表から、加賀藩が旧蔵した洋書の全数は約1,000冊を超えるものであったこと、その内に和蘭書が400冊以上あったことがわかる。

今回、平成17年12月19日より大学資料館では本データの辞書部分の資料をもとに、表2.「加賀藩の洋学に貢献したオランダ語辞書」に記載した書籍を抽出して、解説・展示することを企画した。

表2. 加賀藩の洋学に貢献したオランダ語辞書

I. ラテン語辞書			
1	Pitisco, S.	Lexicon Latino-Belgicum Novum, J. Oh. Danielelem Beman, Rotterodami, 1754. (新ラテン語—ベルギー語辞書)	892-P-1
2	Hoogstraten, D.van	Nederduitsh en Latynsch Woordboek, Gerrit de Groot en Zoon, en S. en J. Luchtman, Amsterdam & Leiden, 1771. (オランダ語—ラテン語辞典)「ラテオン」	892-N-1
3	Engelbregt, Dr.	Latijnsch Woordenboek. J. B. Wolters, Groningen, 1865. (ラテン語辞書)	892-E-1
II. オランダ語辞書			
4	Meijers, L.	L. Meijers Woordenschat, Jan Boom, op de Cingel, Amsterdam, 1720. メーゼル氏教国言字典	849/4/

5	Marin, P.	Groot Nederduitsch en Fransch Woorden-Boek, d'Erven Joannes van Braam, Dordrecht, Jan van Eyl, Amsterdam, Jan Daniel Beman, Rotterdam, M.D. CC. LII. (1752) マーリン蘭仏辞典	成巽閣 2
6	Marin, P.	Dictionnaire Complet François et Hollandois. Joannes van Braam, Dordrecht, Hermanus Uytwert, A. Wor, en de Eyve van G. Onder de Linden, Amsterdam, M.D. CC.XLIII. (1763) マーリン仏蘭字典	成巽閣 3
7	Weiland, P.	Nederduitsch Taalkundig Woordenboek, Johannes Allart, Amsterdam, 1799-1811. 別号 ウエーラント氏小字典, 一部十一冊之内 エーラント氏字典	849.3-W-1-1~11
8	Weiland, P.	Beknopt Nederduitsch Taalkundig Woordenboek. Van Braam, Dordrecht. 1826-1830. 第百六十五番 ウエラント氏辞書 一部五冊	849.3-W-2-1~3- W-2-5
9	桂川甫周	『和蘭字彙』(おらんだじい) 桂川甫周蔵版, 安政2~5年(1855-1858)刊, 和装9冊	849.3-Or-2-1~7
10	藤林晋山	訳 鍵 上, 下 (和蘭和辞典, 文化7(1810)刊)	6-53-63
11	Bomhgoff, D.	A New Dictionary of the English and Dutch Language, J. F. Thieme, Nimmengen, 1851. ボムボウク, 英蘭対訳字典, 一部一冊	6-53-45
12	Bomhgoff, D.	Nieuw Woordenboek der Nederduitsche en Engelische Taal, J. F. Thieme, Nijmegen, 1851. ボムボウク, 英蘭対訳字典, 一部二冊	6-53-6
13	Holtrop, John	Engelsche en Nederduitsch Woordenboek van J. Holtrop. J. van Esveldt Holtrop, Dordrecht en Amsterdam, 1823. ホルトロップ氏英蘭字書	849/3
14	Bomhoff, D.	Nieuw Groot Woordenboek der Nederlandsche Taal, Gebroeders Belinfante, 'sGgravenhage, 1857. ボムホフ和蘭辞書	849.3-B-1
15	Bomhoff, D.	Nieuw Groot Woordenboek der Nederlandsche Taal, D. Noothoven van Goor, Leyden, 1858. ボムホフ氏辞書, 九部九冊之内	849.3-B-2
Ⅲ. オランダ語入門書			
16		Syntaxis, Deventer en Groningen, Leyden, MDCCCX. (1810) 「嘉永元年戊甲九月稟准 和蘭文典後編 成句論」 作州箕作氏蔵版(1848)	6-41-59
17		Grammatica, of Nederduitsche Sprakkunst. Deventer en Groningen, Leyden, MDCCCXXII. (1822) 「和蘭文典前編」	6-41-59
18	Weiland, P.	Nederduitsche Spraakkunst, Bij Blusse en van Braam, Dordrecht, 1839. 「安政丙辰新鑄, 和蘭勿蘭土文範 初篇 木村海藏蔵梓」 エーラント氏文法書, (ウエイラント『和蘭語文法』安政3年版)	6-41-58
19		『和蘭語学原始』 福井藩刊行の和蘭語入門書(文法書)安政3年, 翻刻	849.35-Or

IV. 蘭仏, 独蘭辞書			
20	Calisch, N. S.	Nouveau Dictionnaire Francais-Hollandais, K. Fuhri, Libraire-Éditeur, La Haye, 1855. カリールセ氏ヒーロータル辞書, 一部式冊之内	849.3-C-1
21	Calisch, N. S.	Neues Deutsch-Holländisches Wörterbuch, K. Fuhri, Haag, 1855. (新ドイツ語-蘭語辞典)	843-C-1
V. 地名辞典			
22	Wijk, J. van	Algemeen Aardrijkskundig Woordenboek. J. de Vos & Comp. en J. Plum de Jaager, Dordrecht, 1821-1826. フゾンウエーキ氏地名韻府, 一部拾一冊	290.3-W-1-
23	Wijk, J. van	Supplement op het Algemeen Aardrijkskundig Woordenboek. C. L. Schleijer en Zoon, Amsterdam, 1835-1842. フゾンウエーキ氏地名韻府, 補遺	290.3-W-1-8~11
VI. 技術辞典			
24	Kramers, J. Jz.	Algemeene Kunstwoordentolk. G. B. van Goor, Gouda, 1855. カラムル氏辞書, 十三部十三冊之内, 1巻	803-K-1
25	Kramers, J. Jz.	Algemeene Kunstwoordentolk. G. B. van Goor, Gouda, 1863. カラムル氏辞書, 十三部十三冊之内, 3~8巻 (合計8冊 現 存する)	803-K-2~9

我が国の西欧的・近代的な「ものづくり」の原点「近代科学」は、16世紀にポルトガル船の来航に始まる西欧文化との接触からはじまり、洋学の学習が始まった。17世紀半ばにはオランダ船による蘭書の輸入が始まった。その中心は自然科学書であり、とくに医学書、本草書、地図書であった。18世紀前半は書籍の輸入は停滞したが、後半には活発になり、オランダ語辞書、医学書、地理書などが入ってきた。これらの書籍により西洋科学が伝えられたが、これを読むのは限られた人達であった。しかし、幕末期（1800年代前半）になると長崎にオランダ船によって船載されてきた大量の書籍により、蘭学が急速に広まった。加賀藩では、これまでに細々と学習されていた洋学が、安政元年に開設された「壮猷館」で、兵学書や医学書の翻訳・会読が行われるようになった。オランダ書を読み解くには蘭日辞書が必要であり、さらに他の言語の理解のために各種のオランダ語辞典も必要であった。また、金沢医学館ではオランダ人による医学講義も行われ、その需要はさらに増した。今回は本学付属図書館、石川県立図書館、および成巽閣に架蔵されている「加賀藩壮猷館」、「卯辰山養生所」、「医学館」等で使用されていたオランダ語関係辞書を集め、上記（表2）の書籍を初めて展示することが出来た。これらの書籍を通して見ると、中には我が国の蘭学に重要な役割を果たした蘭書・翻刻書・翻訳書が含まれている事が分かる。以下に各書籍について簡単な解説で紹介する。さらに近年、蘭書の輸入についての重要な史料「阿蘭陀船持渡候書籍銘書」と「書籍売立勘定」の存在が明らかとなり、その研究が行われた⁹⁾。これらの史料から関係書籍の長崎での輸入年、冊数、値段等を参考資料として引用した。書籍の値段は和蘭単位タール (tal) で記載されている。1タールは銀10匁 (37.5gr) の価値であった。

各書籍には各種の印章が捺印されている。この印記はその書籍の来歴を示す重要な資料である。各印章の意味を先ず略記する。それぞれの印章は書籍の写真に見ることが出来る。

「長崎東衛官許」

安政5年に幕府が長崎に東西二ヶ所の役所を置き、オランダより舶載されてきた書籍の検閲を行った。その時に東の役所で輸入許可された書籍に捺印されたのがこの印章である。この検閲は数年間行われたのみであった。

「壮猷館文庫」

安政元年に加賀藩が金沢・柿木島（現、知事公舎の地）に、西洋砲術研究のために設置した藩の公的機関が「壮猷館」である。その後、ここでは洋式兵学および医学等の洋学の研究を行った。慶応年間まで存続した。

「養生所医局蔵」

慶応3年に加賀藩は貧民の救済・療養と病院をかねて、卯辰山の中腹に「養生所」を開設した。黒川良安らが医師として勤めた。これまで壮猷館にあった蘭医学、舎密学関係の人がここに移った。この医局に架蔵された書籍にこの印章が捺印された。

「金沢藩医学館」「医学館」

養生所は明治3年2月に、金沢・大手町の元津田玄蕃邸に移転した。そして「医学館」となり、翌年3月からオランダ人医師、P. J. A. スロイスにより医学教育と治療が行われた。ここに架蔵された書籍にこの印章が捺印された。

なお、明治4年7月の廃藩置県により、金沢県が置かれたことから、「金沢県医学館」の印章もある。

医学館はその後「医学所」「医学校」と移り変わった。

「学校」

加賀藩は若者の教育機関として「明倫堂」「経武館」を置き、文武の指導を行っていた。幕末期にはこの二つは現・中央公園内にあり、総称して「学校」と呼んでいた。ここに架蔵した書籍には「学校」の印章を捺印していた。明治になり廃藩置県を経て、これらは幾つかの過程を経て、石川県立学校「啓明学校」、「石川県中学師範学校」「石川県専門学校」へと移り、明治20年に国立学校・「第四高等中学校」となった。

「越前国校蔵版」

福井藩では安政2年藩主松平春嶽により藩校「明道館」が開設され、同4年橋本左内により「洋書習学所」（蘭学を教授）、慶応元年英学方が置かれた。この印記は「明道館」から出版されたことを示している。

書籍の登録番号（各図書館の登録番号の形式を例で示す。）

金沢大学附属図書館の書籍 6-53-63

金沢大学附属図書館医学部分館（現在は自然科学系図書館に架蔵） 892-P-1,

（アルファベットは著者のイニシャルを示す）

同館 翻刻書, 849. 35-Or-, 和書, 翻刻書 6-41-58

石川県立図書館 849/4/1

成巽閣 成巽閣 2

記載説明：

著者名 : Engelbregt, Dr.

書名(表題) : Latijnsch Woordenboek.

副題 : Naar de elfde uitgaaf van dat van Dr. K. E. Georges op Nieuw bewerkt door
Dr. Engelbregt Hoogleraar to Amsterdam,

発行所, 発行地, 発行年 : J. B. Wolters, Groningen, 1865.

表題翻訳名 : 『ラテン語辞典』 登録番号 892-E-1

印記 : 「金沢藩医学館」

書籍サイズ : 25×16cm, (縦×横), 厚さ 5 cm, 序文 x 頁, 本文1982頁.

表題訳が無い場合に, 新たに添付した. : (ラテン語辞書)

参考資料：

日蘭学会編 『洋学史事典』, 雄松堂出版, 1984.

松田清, 『洋学の書誌的研究』, 臨川書店刊, 1998.

宮永孝, 『日本洋学史』, 三修社, 2004.

永積洋子, 『18世紀の蘭書注文とその流布,』(平成10年) 科学研究費補助金, 研究成果報告書.

I. ラテン語の辞書

16世紀半ばから, 我が国へ西ヨーロッパからの言葉としてポルトガル語, スペイン語, ラテン語が始めに入ってきた. 特にキリスト教の教義がラテン語で書かれていたことから, キリシタンによりラテン語が学ばれていた. しかし, ラテン語の書籍はそれほど多くは輸入されていなかった. 慶長年間にオランダ船の来航を期に, 新たにオランダ語が入ってきた. 幕府の鎖国政策が, オランダとの接触を増して, 外来文化はオランダに依存するようになった. 一方, 当時入手した動物・植物図鑑や博物図鑑がラテン語で書かれていた為に, ラテン語辞書の輸入が行われ, S. Pitisco の辞書や D. van Hoogstraten の辞書はその例であるとするものもある⁹⁾.

1. (写真1. 2.)

Samuele Pitisco

Lexicon Latino-Belgicum Novum

J. OH. Danielen Beman, Rotterdam, 1754.

『新ラテン語—ベルギー語辞書』1巻, 登録番号: 892-P-1,

印記：「壮猷館文庫」「養生所医局蔵」「金沢藩医学館」
書籍サイズ：26/21cm，厚さ10cm，序文 xlii，本文683頁。

Samuele Pitisco (サミュエル・ピティスコ) (1637-1727)

オランダ・ユトレヒトのラテン語学校長 S. ピティスコが編纂した『羅蘭辞典』第4版であるが、内容はラテン語-オランダ語辞書である。江戸時代に舶載したラテン語辞典で、蘭学者や通訳により利用されたものである。本書の初版は1704年にアムステルダム・Franciscus Halma から出版されている。本書は1754年にロッテルダム・J. OH. Danielen Beman から出版されたものである。我が国には版の違うものが僅か4冊のみ架蔵されている。

我が国に舶載して来た古いラテン語書籍の記録（近藤重蔵「好書古事」第七十九）に次のような記載がある。

『羅甸积辞典 原名 和蘭国サシウルピチスコ撰』

これは本書についての記載とみられる。加賀藩が何時・どの様に本書を入手したのかは不明であるが、印記は「壮猷館文庫」「養生所医局蔵」「金沢藩医学館」であることから、安政元年に壮猷館が開設されたころにはすでに存在したとみられる。

2. (写真3. 4.)

Hoogstraten, David van Nederduitsh en Latynsch Woordenboek,

Dictionarium Belgico-Latinum

ten dienste der Latynsche Scholen, eerst Opgesteld door S. Hannot, naderhand vermeerderd door D. Van Hoogstraten, en nu met nieewe vermeerderingen en verbeteringen uitgegeeven door H. Verheyk.

Gerrit de Groot en Zoon, en Samuel en Johannes Luchtman, Amsterdam & Leiden, 1771.

『オランダ語-ラテン語辞典』『ラテオン』二冊ノ内，登録番号：892-N-1

(表題頁が失われ，蔵書印は無い)

書籍サイズ：24/20cm，厚さ7cm，本文1014頁（現存の本文），

[序文10頁，本文1062頁。調査した資料からのデータ]

本書は1771年にアムステルダムとレイデンで出版された初版本である。表紙，表題頁は破損・紛失して，1頁より以下が現存している。同名書籍を検索・調査した結果の資料よりの表題頁を展示した(写真3)。所蔵印記も失われている。表題頁の記載によれば，始めに S. Hannot が著作・編集したものを，D. van Hoogstraten が増補を行い，さらに H. Verheyk により増補・改訂が行われたものである。

David Frantzoon van Hoogstraten

(1658年3月14日ロッテルダム生，1724年11月21日アムステルダム没) 医師，詩人，言語学者であった。Henricus Verheyk (アムステルダム生，1784年レイデン没) はラテン語学校副校長であった。本書の金沢藩での情報は不詳であるが，恐らく「壮猷館文庫」「養生所医局」「医学館」に架蔵されていたものと見られる。

3. (写真5.)

Engelbregt, Dr.

Latijnsch Woordenboek.

Naar de elfde uitgaaf van dat van Dr. K. E. Georges op Nieuw bewerkt
door Dr. Engelbregt Hoogleraar to Amsterdam,

J. B. Wolters, Groningen, 1865.

『ラテン語辞典』 登録番号 892-E-1

印記：「金沢藩医学館」

書籍サイズ：25×16cm，厚さ5cm，本文1982頁.

カルル・エルンスト・ゲオルゲスが編纂したラテン語辞書（第十一版）に，アムステルダム大学教授のエンゲルブレヒト（Engelbregt）が改訂して，オランダ・フロニンゲン（Groningen）のJ. B. ワルター社から1865年に出版されたラテン語辞典である．本書は江戸幕府の蕃書調所にも架蔵されていた．印記から加賀藩医学館で購入されたものとみられる．

II. オランダ語の辞書

加賀藩に最も古くから架蔵されていたと見られるオランダ語辞書は，“L. Meijers Woordenschat.” Amsterdam, 1720. (石川県立図書館蔵)『メイエル辞学宝函』である．また，我が国のオランダ語の歴史上重要な『マーリン蘭仏辞典』“P. Marin, Groot Nederduitsch en Fransch Woorden-Boek”, Amsteldam en Rotterdam, 1752, (成巽閣蔵)も壮猷館文庫に架蔵されていた．次に記載のオランダ語辞書は，洋学史上重要なものである．また，蘭日辞書として『和蘭辞彙』、『訳鍵』は蘭学に大きな貢献をしたものである．

4. (写真6. 7. 8.)

Meijers, L.

L. Meijers Woordenschat,

verdeelt in : 1. Bastaardt-woorden, 2. Konst-woorden, 3. Verouderde woorden,
Achtste Druk. Alom veel vermeerderd en verbeterd.

Jan Boom, op de Cingel, Amsterdam, 1720.

『メーゼル氏数国言字典』第八版，改訂増補．登録番号 849/4 (石川県立図書館蔵)

印記：「加州蔵書」「加州海軍局文庫之記章」「加州軍艦蔵書」

蔵書目録：「メイエル辞学宝函」

内容：語彙，1. 外来語，2. 新造語，3. 古語

書籍サイズ：15／9 cm，709頁.

Meijers, Lodewijk (Meyer) (1629-1681)

メーエルは1629年10月18日にアムステルダムで生まれ，1681年11月25日に同地で没した．彼は1654-1660年にライデン大学で医学，哲学を学んだ．医師，哲学者，辞書編集者，劇作家，アムステルダム劇場の支配人，芸術協会“Nil volentibus arduum”の創設者であった．以下の様に多くの著作がある．

Nederlandsche woorden-schat (1654)
Corneille's De Loogheenaar (1658)
Nederlandsche woorden-schat (2 delen) (1658)
Nederlandsche woorden-schat (1663)
Philosophia sanctae scripturae interpres (1666)
De philosophie d' uytlegghster der H. schrifture (1667)
Ghulde vlies (1667)
Verloofde koninksbruidt (1668)
L. Meijers Woordenschat (3 delen) (1669)
Het spookend weewtje, blyspel (1670)
Andromache (1678)

本書は1720年に出版された第八、改訂・増補版である。本書の1. Bastaardt-woorden (外来語辞典) 部分が、文政5年(1822)に侍医大江春塘編で「バスタールド辞書」(蘭日辞書)二冊として中津藩侯奥平昌高が江戸で出版している。総語数7249語。「バスタールド辞書」は金沢市立図書館にも架蔵されている。

5. (写真9. 10.)

Pieter Marin

Dictionnaire Complet Francois et Hollandois.

Compleet Fransch en Nederduitsch Woorden-Boek,

Behelsende alle gebrukelyke woorden, door de Fransche Academie en andere uitgelezene Schryvers angenomen, naauwkeuriglyk beschreven, en door Voorbeelden, die den regten aart der wederzydsche Taalen antuurlyk ontvouwen, klaarlyk uitgelegt.

Door P. Marin.

Derde druk, merkelyk vermeerderd,

Te Dordrecht, by Joannes van Braam,

Te Amsterdam, by Hermanus Uytwerf, A. Wor,

en de Erve van G. Onder De Linden. M.D.CC.XLIII, (1743)

『マリーン仏蘭辞典』三版, 1743年, ドルドレヒト, アムステルダム, ライデンで出版.

金沢・成巽閣蔵, 印記: 「壮猷館文庫」

「NAMOERA」印及び署名有り.

6. (写真11. 12.)

Pieter Marin

Groot Nederduitsch en Fransch Woorden-Boek,

Vervattende de woorden en spreekwrzen van den laaghen, den boertigen, den gemeenzaamen, en den verhe-ven styl : spreuken en spreekwoorden,

Gelyk oor de gebrukelykste woorden der kunsten en wetenschappen, der hanteringen, ambachten en uitspanningen in beide taalen.

Door P. Marin.

Derde Druk,

Te Dordrecht, by d' Erven Joannes van Braam,

Te Amsteldam, by Jan van Eyl,

Te Rotterdam, by Jan Daniel Beman, M.D.CC.LII. (1752)

『マリーヌ蘭仏辞典』三版1752年, ドルドレヒト, アムステルダム, ロッテルダムで出版.

金沢・成巽閣蔵, 印記: 「壮猷館文庫」

「NAMOERA」印及び署名有り.

Marin, P. (Pierre Marin) (1667-1718)

フランス・ラフェルトに生まれ, オランダ・アムステルダムに移住して語学教師となった. 仏蘭・蘭仏対訳辞典, フランス語文法書, フランス語学習書の編集・刊行を行い, 多数の著書がある. 我が国に早く舶載されたマリーヌの著作は, オランダ語, フランス語の普及・発展に寄与するところが大きかった. 宝暦4年(1754)には1冊のマリーヌの蘭仏・仏蘭辞書がフランソワ・ハルマの辞書と共に長崎に輸入された. さらに, 宝暦6年(1756)には上下二冊, 宝暦11年(1761), 同12年, 明和元年(1764)にも輸入された. これらは蘭通詞や蘭学書によって広く利用された. また, 本書を元にして, 幾つかの翻訳本, 編集本が作られている. 金沢本は3版であり, 「NAMOERA」の朱印と署名(写真12)があり, これは長崎・通詞名村家の旧蔵書である. 本書は静岡・葵文庫などにも架蔵され, 多数冊が現在残っている.

7. (写真13.)

Petrus Weiland

各巻の内容 (巻)	発行年	頁 数 (表紙, 序文, 目次等/本文)	登録番号
1 A,	1799	x /196/269	849.3-W-1-1
2 B, C, D,	1801	x /310	849.3-W-1-2
3 E-H,	1802	xvi /353	849.3-W-1-3
4 I-L,	1803	viii /335-791	849.3-W-1-4
5 M-N,	1804	viii /323	849.3-W-1-5
6 O,	1806	vi /325	849.3-W-1-6
7 P-R,	1807	/269	849.3-W-1-7
8 S,	1810	iv /273-779	849.3-W-1-8
9 T-U,	1810	iv /273-779	849.3-W-1-9
10 V,	1810	/527	849.3-W-1-10
11 W-Z,	1811	iv /461	849.3-W-1-11

Nederduitsch Taalkundig Woordenboek.

Johannes Allart, Amsterdam, 1799-1811.

『ウェーラント氏字典』, 『エーランド氏字典』(オランダ言語学字典)全11巻

印記: 「壮猷館文庫」「医学館」, 登録番号 849.3-W-1-1~11.

書籍サイズ: 22/13cm,

8. (写真14.)

Petrus Weiland

Beknopt Nederduitsch Taalkundig Woordenboek.

各巻の内容 (巻)	発行年	頁 数 (表紙, 序文, 目次等/本文)	登録番号
1 A-D,	1826	482	849.3-W-2-1
2 E-K,	1828	554	849.3-W-2-2
3 L-Q,	1829	534	849.3-W-2-3
4 R-U,	1829	514	849.3-W-2-4
5 V-Z,	1830	567	849.3-W-2-5

Van Braam, Dordrecht, 1826—1830.

『第百六十五番 ウェランド氏辞書』, 『コンサイスオランダ語字書』(和蘭小字典) 全5冊

印記: 「養生所医局蔵」 「金沢藩医学館」, 登録番号 849. 3-W-2-1~5

書籍サイズ: 23/13cm,

Petrus (Piter) Weiland (1754—1841)

1754年11月5日にアムステルダムで生まれる。ハウダ市・ラテン語学校, ライデン・国立教育学校で学び, ウールデンで牧師になる。その後, ウトレヒト, ロッテルダム, アムステルダムに移る。アムステルダムの修練所の教授職に就いたが, 眼病のために退職した。1841年1月26日に没した, 97才。

彼は言語学者として活躍して名声を得た。4『オランダ言語学辞典』はその代表的著作であり, 言葉の基礎について詳細に記述して, この分野の優れた辞書とされた。それ以後に編纂された多くの辞書はほとんどが本書を基としていると云われている。我が国では18『和蘭乙蘭土文範初篇』と9『和蘭字彙』はこの書によっていると云われている。和蘭語文法の制定にも大きい貢献がある。これらの他には,

“Begin der Nederduitsch Spraakkunst”, 1806.	入門オランダ語文法
“Fransch-Nederduitsch Woorden Zijnetaalk”, 1810.	仏蘭小辞典
“Kunstwoordenboek of Verklaring van Vremde woorden”, 1824.	外来語辞典
“Woordenboek Nederduitsch Synonymen”, 1825.	オランダ語同義語辞典
“Nederduitsch Spraakkunst”, 1846.	オランダ語文法
“Nederduitsch Letterkundig Woordenboek”, 1844—1845.	オランダ文学辞典
“Groot Nederduitsch Taalkundig Woordenboek”, 1859.	大オランダ語辞書

等の著書がある。「書籍売立勘定」には, 1856年(安政3年)に, Nederduitsch Taalkundig Woordenboek, 11deelen 3冊が126テールで, Beknopt Nederduitsch Taalkundig Woordenboek 8冊が140テールで売られた記録がある⁹⁾。

9. (写真15. 16.)

『和蘭字彙』(おらんだじい)

桂川甫周 編著

桂川甫周蔵版, 安政2~5年(1855—1858)刊, 和装9冊,

印記: 「壯猷館文庫」 「金沢藩医学館」

登録番号 849. 3-Or-2-1~7,

書籍サイズ: 26/18cm,

(A: 2, 84丁, 849. 3-Or-2-1), (B: 欠), (C-D: 10, 66丁, E-G: 27, 12, 134丁, 以上合冊, 849. 3-Or-2-2), (H-J: 欠), (K: 125丁, 849. 3-Or-2-3), (L-N: 77, 81, 43

丁, 849. 3-Or-2-4), (O: 217丁, 849. 3-Or-2-5), (P-R: 欠), (S: 161丁, 849. 3-Or-2-6), (T: 78丁, U-V: 37, 183丁, W-Z: 88, 1, 2, 51, 2丁, 以上合冊, 849. 3-Or-2-7)

和蘭語字書として、長崎オランダ商館長ズーフ (Hendrik Doeff) が、フランソワ・ハルマ (François Halma) の蘭仏辞典を基にして、長崎の通詞の協力をえて、蘭日辞典の編纂を行い、文化13年 (1816) から翌年にかけてA~Tまでを作り上げた。ズーフの帰国後の天保4年 (1834) に全巻が出来上がった。これが有名は『ズーフ・ハルマ』である。その後、長い間、幕府は辞書の出版を許可しなかったが、幕府の医官・桂川甫周の求めに許可があり、安政2年 (1855) から P. Weiland の辞書 (Nederduitsch Taalkundig Woordenboek, 1799-1811) や他の書籍を用いてズーフハルマの校訂・増補を行い、安政5年 (1858) 5月に完成した新辞書が『和蘭字彙』である。見出し語は約5万語の大辞典である。幕末期の蘭日辞書と云われるものは、『和蘭字彙』と次の『訳鍵』の二つであり、蘭学を志すものが必ず利用したものである。金沢壮猷館にも幾組かの本辞書が架蔵されていた。

10. (写真17. 18.)

訳 鍵 (蘭日辞書)

登録番号 6-53-63, 上下二冊.

江戸の蘭学者大槻玄沢の門人、稲村三伯 (1758-1811) と鳥取藩侍医はフランソワ・ハルマ著「蘭仏辞典」(Woordenboek der Nederduitsche Fransche Taalen, Amsterdam en Utrecht, 1729) をもとに辞典の編纂を石井恒右衛門に託した。その石井の原稿を稲村と安岡玄真が校正して蘭日辞書「ハルマ和解」(一名、江戸ハルマ) を寛政8年 (1796) に完成した。この辞書には約64,000語が集録されていた。その後、京都・山城の藤林普山 (ふざん) がこの辞書を簡略化して、文化7年 (1810) に『訳鍵』を100部刊行した。本書は上下二巻からなり、その大きさは、上巻が26cm×17.5cm, 厚さ3.3cm, 158頁, 下巻が同じ大きさで厚さ3.9cm, 294頁と「大西葯名」(薬名) 33頁であり、収録語24,267語であった。さらに本書は文政7年 (1824) に100部が再刊行された。「ハルマ和解」よりも、本書は扱い易すかったことから多くの人が和蘭書の会読に利用した。『訳鍵』は、金沢には本学をはじめ、市立図書館、県立図書館にも架蔵され、また個人蔵のものも多数あるが、いずれも再版書である。

11. (写真19.)

Derk Bomhoff, Hz.,

A New Dictionary of the English and Dutch Language.

J. F. Thieme, Nimmengen, 1851.

『英蘭新辞典』, 登録番号 6-53-45.

印記: 「学校」, 1冊. (新英蘭辞典)

書籍サイズ: 17/13cm, 序文 viii, 本文1055頁.

12. (写真20.)

Derk Bomhoff, Hz.,

Nieuw Woordenboek der Nederduitsche en Engelse Taal.

Tweede deel, Nederduitsche-Engelische, vierde uitgave.

J. F. Thieme, Nijmegen, 1851.

『蘭英新辞典』2版, 登録番号6-53-6.

印記: 「学校」, 1冊. (新蘭英辞典)

書籍サイズ: 17/13cm, 序文 vi, 本文1256頁.

長崎に舶載されてきた本書について、1854年の目録に1部2冊、1855年の目録に2部4冊の購入記録がある。また、1858年の「書籍売立勘定」には、1冊4.80テールで20冊96.0テールでの記録がある⁹⁾。

13. (写真21. 22.)

Holtrop, John

Engelsche en Nederduitsch Woordenboek van J. Holtrop.

herzien, vermeerderd verbeterd door A. Stevenson.

J. van Esveldt Holtrop, Dordrecht en Amsterdam, 1823.

『ホルトロップ氏英蘭字書』登録番号849/3 (石川県立図書館蔵)

印記: 「加州軍艦蔵書之印」

書籍サイズ: 序文 vii 頁, 本文1032頁.

本書は1823年にドルドレヒト、アムステルダムで出版された英語・蘭語辞書である。この辞書は1789-1801年に出版された「新英蘭・蘭英辞書」の再販本である。嘉永4年(1851)―安政元年(1854)に本書を基に、西吉兵衛、森山栄之助、植林栄七郎、名村五八郎等により編纂されたのが「エゲレス語辞書和解」である。写本7冊(Aの部4冊, Bの部途中まで3冊)で終わっている。この「和解」書は天保8年(1837)のモリソン号の来航により、外圧に備える国防上の必要から、急いで英蘭辞典の編訳をしたときの未完本である。また、この底本は福沢諭吉が幕府蕃書調所に入門して、英語を学ぶために横浜出入りの商人から入手した「英蘭対訳発音付辞書」一部2冊である。彼はこれを独学して英語を習得したと「福翁自伝」に記している。

1860年の「書籍売立勘定」リスト13には本書20冊が、1冊当たり5.10テール、計102テールで売られた記録がある⁹⁾。

14. (写真23.)

Derk Bomhoff, Hz.,

Nieuw Groot Woordenboek der Nederduitsche Taal.

Gebroeders Belinfante, 's Gravenhage, 1857.

『ボムホフ和蘭辞書』登録番号849. 3-B-1.

印記: 「金沢藩医学館」, 1冊. (新オランダ語大辞典)

書籍サイズ: 24/15cm, 序文 viii, 本文1210頁.

15. (写真24.)

Derk Bomhoff, Hz.,

Nieuw Groot Woordenboek der Nederduitsche Taal.

D. Noothoven van Goor, Leyden, 1858.

『ボムホフ辞書』, 登録番号849. 3-B-2, 849.3-B-3, 849.3-B-4, 849.3-B-5, 849.3-B-6.
印記: 「金沢藩医学館」, 5冊。(新オランダ語大辞典)
書籍サイズ: 24/15cm, 序文 viii, 本文1210頁.

Derk Bomhoff, Hz. (1792-1860)

ボムホフは1792年4月2日にオランダ Vaasen で生まれ, 1860年1月1日に Zutphen で没した, 68才. 彼は新聞社の小僧として自活しながら勉強して言語学者となった人である. 著書には上記のほかに, Nieuw Hollandsch-Fransch en Fransch-Hollandsch Woordenboek (新蘭仏・仏蘭辞典, 2冊) 初版1846年, と2版1852年があり, これらの書籍の多数が我が国に輸入されていた.

加賀藩には4種12冊以上が藩校や医学館に架蔵されて使用されていた. 医学館ではオランダ人教師(スロイス, ホルトルマン)のオランダ語での講義を, 通訳や生徒達がこの辞書を用いて勉強したものと見られる. また, これらの辞書を通じて, オランダ語をはじめ, フランス語, 英語の学習が行われていたのであろう.

『新オランダ語大辞典』の副題には「普通の言葉を挙げ, その種々の意味を示し, また必要に応じてその実例を示した.」とあり, 「オランダ語の十分な理解と正しい記述のために必要な手引き書である. 商人, 学者, 聖職者, 役人, 教師とその生徒のために, 言葉の綴りや使用でのすべての困難のための手引きでもある.」と記して, その有用さを示している.

Ⅲ. オランダ語入門書

次の3点の書籍は翻刻本・写本で幕末期のオランダ語の学習の入門書として広く使われたものである. 蘭学塾では初心者には必ずこれらの講義をうけ, 試験に合格した上で, 蘭書の会読(輪読)を行うことが出来た. それ以上は, 各個人での学習であった.

16. (写真25. 26.)

Grammatica of Nederduitsche Spraakkunst,

uitgegeven door de Maatschappij tot nut van 'T Algemeen.

Tweede druk. bij D. du Mortier en Zoon, J. H. de Lange, en J. Oomkens,

Deventer en Groningen, Leyden, MDCCCXXII. (1822)

『和蘭文典前編』登録番号6-41-59

おらんだ(わらん)ぶんでんぜんへん, 通称「ガランマチカ」(和訳表紙は破損紛失)

印記: 『第四高等学校図書』

書籍サイズ: 26/18cm, 本文61丁.

卷末刊記: 天保十三年壬寅九月稟准/和蘭文典前編/作州箕作氏蔵版

『オランダ語文法』第二版, 「共益会社版」の翻刻版である. 原書は D. du Mortier とその息子, J. H. de Lange, と J. Oomkens により著作され, デーフェンターとフロニンフェン, ライデンで1822年に出版された.

本書は天保13年(1842)に美作(岡山)の箕作阮甫により『和蘭文典前編』として翻刻・出版されたものである. 『和蘭文典後編』とは対となり, オランダ語の初心者の学習に使用された. 加賀藩では「蘭文軌範」と呼んでいた.

17. (写真27. 28.)

Syntaxis of Woordvoeging der Nederduitsche Taal.

uitgegeven door de Maatschappij: tot nut van 't Algemeen.

bij D. de Mortier en Zoon, J. H. de Lange, en J. Oomkens.

Deventer en Groningen, Leyden, MDCCCX. (1810)

『嘉永元年戊甲九月稟准 「和蘭文典後編 成句論」』登録番号6-49-51

おらんだ(わらん)ぶんてんぜんこうへん 通称「セインタキス」

作州箕作氏蔵版(1848)

印記:「第四高等学校図書」

書籍サイズ:26/18cm, 47丁.

卷末刊記:安政四年七月/江都書林 山城屋佐兵衛, 播磨屋勝五郎, 須原屋伊八

『オランダ語文章論』で原本は de Maatschappij (共益会社版), D. de Mortier en Zoon, J. H. de Lange, en J. Oomkens により, デーフェンターとフロニンフェン社(ライデン)から1810年に刊行され、弘化二己年(1845)に2冊が輸入されたことが「持渡書籍銘書帳」に記載されている⁹⁾。

本書は嘉永元年(1848)に美作(みまさか, 岡山)の箕作阮甫により翻刻・出版されたものである。木版印刷で行われている。オランダ語の初心者学習のために多く使用されていた。加賀藩では「蘭文軌範」と呼んでいた。

18. (写真29. 30.)

P. Weiland

Nederduitsche Spraakkunst,

Uitgegeven in Naam en op Last van met Staatsbestuur der Battafsche Repuliek.

Nieuwe door den Auteur Zelfen Overziene en Verbeterde Druk.

Te Dordrecht, Bij Blusse en Van Braam. 1839.

『和蘭沕乙蘭土文範 初篇』, 登録番号6-41-58

木村海蔵蔵梓, 安政三丙辰年,

印記:「第四高等学校図書」

書籍サイズ:26/18cm, 本文65丁.

卷末刊記:木村海蔵校正, 安政三丙辰年 勝村治右衛門(京都), 河内屋喜兵衛(大坂), 山城屋佐兵衛(江戸)

Petrus Weiland (177年9月9日生, 1841年1月26日没)の「オランダ語文法書」で、オランダがバタビア共和国(1795-1806)の時代に編纂されたものであり、ドルドレヒトのBlusseとVan Braam. により1839年に出版された。この原本を安政3年(1856)に、木村海蔵の校正で翻刻・出版したものである。本書は蘭学者たちによりオランダ語の入門書として広く使用された。シーボルトと「たき」との間に生まれた娘「いね」も、父から送られてきたNederduitsche Spraakkunstでオランダ語を勉強した。

19. (写真31. 32.)

『**蘇蘭語学原始**』

福井藩刊行の和蘭語入門書 (文法書)

安政3年, 翻刻. 登録番号 849. 35-Or

印記: 「**壮猷館文庫**」「**養生所医局蔵**」「**金沢藩医学館**」「**金沢医科大学図書**」「**越前国校蔵版**」

書籍サイズ: 26.7cm×18cm, 厚さ0.8cm, 本文24丁.

本書は福井藩藩校「**明道館**」で, 和蘭書「**Eerste Beginselen der Nederduitsche Spraakkunst**」の蘭領東インドの学校用として出版された書籍「**Eerste Beginselen der Nederduitsche Spraakkunst ter dienste der Scolen in Nederduitsch Oost-indie, Saramang, bij Oliphant en comp. 1844**」を基に翻刻・刊行されたものである. 文字は活字体ではなく筆記体である. 表題は「**紀元千八百四十四年刊, 蘇蘭語学原始, 窩窩所徳温実学校利用**」とあり, 原本の刊行年を「**紀元**」で表し, 書名を付けている. 奥付には, 「**皇安政丙辰 季秋翻刻**」とあり, 安政3年 (1856), 秋に翻刻されてものであることを示している.

本書は和装本であり, 印記は「**壮猷館文庫**」「**養生所医局蔵**」「**金沢藩医学館**」「**金沢医科大学図書**」であり, 刊行後直ぐに, 加賀藩**壮猷館**に架蔵されたものである.

IV. **蘭仏, 独蘭辞書**

オランダ語とドイツ語とは非常に近い関係にあるが, 加賀藩の購入したドイツ語書籍の数は非常に少ない.

しかし, ドイツ書のオランダ語訳したもの, 特に医学書は多い, フランス書は兵学関係に多く見られる.

20. (写真33.)

Calisch, N. S.

Nouveau Dictionnaire Français-Hollandais.

Seconde Édition.

K. Fuhri, Libraire-Éditeur, La Haye, 1855.

『**カリーセ, 新蘭仏辞書**』, 『**カリーセ氏ヒーロタール辞書**』, 登録番号 843. 3-C-1

印記: 「**長崎東衛官許**」「**金沢藩医学館**」

書籍サイズ: 18/13.5cm, 厚さ2cm, 本文283頁.

21. (写真34.)

Calisch, N. S.

Neues Deutsch-Holländisches Wörterbuch.

Zweoite auflage,

Im Verlaag von K. Fuhri, Haag, 1855.

『**カリーセ, 新独蘭辞書**』第二版, 登録番号 843-C-1

印記: 「**長崎東衛官許**」「**金沢藩医学館**」

書籍サイズ: 18/13.5cm, 厚さ2.5cm, 本文328頁.

Nathan Salmon Calisch (1819-1891)

Calisch の父親、兄弟は各種の辞書の編纂に携わっていた。本ドイツ語辞書は、幕府の蕃書調所にあった数少ないドイツ語辞書であり、その後の我が国のドイツ語の発展に貢献したものと云われている。印記は本書が安政5年頃に長崎で購入され、幕府の役所で検閲を受けて、「長崎東衙官許」が捺印されものであることを示している。

V. 地名事典

22. (写真35.)

Wijk, R. J. van

Algemeen Aardrijkskundig Woordenboek

volgens de nieuwste staatkundige veranderingen, en de laatste beste en zekerste berigten.

1-8 Deel,

J. de Vos & Comp. en J. Pluim de Jaager, Dordrecht, 1821-1826.

『フソンウエーキ氏地名韻府』, 一部拾一冊, 登録番号 3-W-1-1~7

印記: 「長崎東衙官許」「医学館」

書籍サイズ: 22/13cm,

書籍	頁数	発行年	登録番号
1 A-B	xiii/384p.	Dordrecht, 1821,	290. 3-W-1-1
2 B-D	xxxvi/434 (385-818) p.		290. 3-W-1-2
3 E-H	495 (819-1314) p.		290. 3-W-1-3
4 I-M	i/480p.		290. 3-W-1-4
5 M-P	536 (481-1016) p.	(タイトルページ欠)	290. 3-W-1-5
6 Q-T	479 (1017-1496) p.	(タイトルページ欠)	290. 3-W-1-6
7 U-Z	xxi/413 (1497-1910) p.	G. L. Schleijs, Amsterdam, 1826.	290. 3-W-1-7

23.

Wijk, R. J. van

Supplement op het Algemeen Aardrijkskundig Woordenboek.

supple. 1-4 Stuk,

C. L. Schleijs en Zoon, Amsterdam, 1835-1842.

『フソンウエーキ氏地名韻府, 補遺』登録番号 3-W-1-8~11

印記: 「長崎東衙官許」「医学館」窩

書籍サイズ: 22/13cm,

書籍	頁数	発行年	登録番号
1 A-B	viii/576p.	1835	290. 3-W-1-8
2 C-I	ii/576p.	1838	290. 3-W-1-9
3 K-P	ii/576p.	1840	290. 3-W-1-10
4 P-Z	ii/695/後付ページ 2 p.	1842	290. 3-W-1-11

Roelandzoom J. van Wijk

Roelandzoom J. van Wijk は『フソンウエーキ氏地名韻府』（一般地理学辞典・全7巻）を1821年から1826年にかけて、ドルドレヒトの出版社とアムステルダム出版社（Schleijer）から出版した。さらに1842年にこの「補遺4巻」を追加・出版した。副題には、最新の政治的变化、最新の確実な情報により編集したとある。さらに、Wijk は J. Jaeger と共著で“Atlas der Geheele Aarde”『世界地図』を1880年に出版している。これは19世紀の有名な世界地図であり、ヨーロッパの国々、オランダ属州、東・西インド植民地を含んでいる。両書籍は安政6年頃に長崎で購入され、幕府の役所の検閲を受けたものである。

「阿蘭陀船持渡候書籍銘書」に、1848年に1部10冊、1851年に1部7冊、同補遺1部4冊、1853年に1部7冊、1854年に1部7冊（計4部）の記録がある。また、1857年（安政4年）の「書籍立勘定」には1部38.50テールで売られていた事を示す記録がある⁹⁾。

VI. 技術辞典

24. (写真36.)

J. Kramers, Jz.

Algemeene Kunstwoordentolk.

Tweede verbeterde en vermeerderde druk.

G. B. van Goor, Gouda, 1855.

『カラムル氏辞書、十三部十三冊之内』第二版改訂増補。登録番号 803-K-1

印記：「金沢藩医学館」

書籍サイズ：22/12.5cm，厚さ6cm，序文x頁，本文1032頁，書籍広告22頁。

（一般技術語辞典）

25.

J. Kramers, Jz.

Algemeene Kunstwoordentolk.

Derde, aanmerkelijk verbeterde en vermeerderde druk.

G. B. van Goor, Gouda, 1865.

『カラムル氏辞書、十三部十三冊之内』第三版改訂増補。登録番号 803-K-2～9

印記：「金沢藩医学館」

書籍サイズ：23/13.5cm，厚さ5cm，序文x頁，本文1144頁。

（一般技術語辞典）（8冊全て同じ書籍）

Jacob Janszoon Kramers (1802-1869)

オランダの著述家。ドルトレヒトで生まれ、フレースウィク、ションホベンで教師を務め、フオーダのフォール・ゾンネン社で教科書、参考書、辞書の編集を行っていた。

本書は広い領域の述語を収集・解説した辞典であり、第1版は1847年に出版された。

この他に、「世界地理地名辞典」「地理・統計・歴史便覧」「外来語辞典」「仏蘭・蘭仏辞典」を出版している。

Geographisch Woordenboek der Geheele Aarde.

Geographisch-Statistisch-Historisch Handboek.

Woordentolk, verkort.

Fransch-Nederduitsch en Nederduitsch-Fransch Woordenboek.

1856年（安政3年）の「書籍売立勘定」には本書（1855年版）五冊55.5テールでの買い取り記録がある⁹⁾。

まとめ

今回、展示した加賀藩架蔵のオランダ語関係辞書66点から、加賀藩における洋学、蘭学の吸収と発展の歴史を直接みることが出来る。これはまた、わが国の洋学史の一部をも示すものである。オランダ語入門のためにわが国で広く使用された書籍、『Grammatica』、『Syntaxis』、『Sprakkunst』や福井藩で発刊されたウェーランド文法書『和蘭語学原始』があり、これらを用いて加賀藩でも初心者のオランダ語入門の教育が行われていたと見られる。続いて蘭日辞書『訳鍵』『和蘭字彙』の二書があり、これは蘭書の解読には必須なものであった。さらに Weiland, Bomhoff らの和蘭語辞書、Wijk, Kramers の地名、技術辞典の使用により、より高度の蘭書の解読を行うことができた。とくに Bomhoff の和蘭語辞書、Kramers の技術辞典が複数冊あることは、医学館での職員、生徒の使用の便宜を考えた上での購入であったと見られる。加賀藩は和蘭書を約四百冊架蔵していたこと、スロイスとホルトルマンによりオランダ語での講義が行われていたことから、これらの辞書の使用も頻繁なものであった。現在金沢には大型の蘭和辞書『ズーフ ハルマ』は無いが、香川大学図書館には、加賀藩の鹿田文平が使用した本書が架蔵されている¹⁰⁾。

加賀藩での蘭書の使用は、1700年代から1850年代の書籍を解読した時代、—この時代は藩校関係者により読まれていたものかどうかは明らかでない。続いて安政元年の「壮猷館」の開設により藩の正式の機関での解読となり、蘭書の購入数、種類の増加となり翻訳局の仕事も増加した。ここでどの書籍が解読・翻訳されたかは資料がなく明らかでないが、例えば『硝石製法』文久三癸亥三月翻訳於壮猷館 米積浄記」なるものがあり、原典は不明であるが壮猷館での作業の一つを現している¹¹⁾。米積は壮猷館の製造方主付定番御歩松原小四郎の部下であった。製造方は硝石製造あるいは火薬製造の担当と見られる。

長崎での和蘭人からの書籍の購入は制限のもとで行われていた。注文は通詞によりまとめられて、和蘭商館にたいして注文書が提出されていた。例えば「嘉永7年当寅阿蘭陀船持渡候書籍銘書 寅閏七月」（古文書Ⅰ、358武雄市教育委員会所蔵）には、1854年に舶載されてきた書籍がカタカナで著者名、書籍名、部数、冊数が記録されている。また「書籍売立勘定」（Verkooprekening、売上計算書）には和蘭語で書籍名、冊数、単価、小計が記されている⁹⁾。これらの史料を調べることで、幾つかの書籍の購入年、購入単価が明らかとなった。

幕末期の横浜開港と合わせて、オランダ書に代わり、英書、仏書が大量に輸入された。そのことが加賀藩の収蔵書籍にもはっきりと現れている。その結果、英語、フランス語の習得が必要となった。英和辞典、仏和辞典はなく、人々は英蘭・蘭英辞書、仏蘭・蘭仏辞書を片手に学習したのであった。

慶応三年に卯辰山養生所が開設され、同医局には医学関係の書籍が置かれたが冊数は少なかった。これが明治三年に大手町に金沢医学館が開設されて、オランダ医学書の冊数は急激に増加した。一部はスロイス自身がオランダから持ってきたものもある。例えば、彼の出身学校であるユトレヒト

陸軍軍医学校の医学教科書が幾つかある。またオーデマンの『オランダ野草図譜』も彼が持ってきたものであり、植物学の講義で使用された¹²⁾。

加賀藩の架蔵していた書籍、あるいはその一部ではあるが今回展示の「和蘭辞書」に関して、静岡県立図書館の葵文庫に登録されている書籍と比較すると共通点が見られる。葵文庫は徳川家の旧蔵書籍を保管・管理するものである。両者には同じ和蘭辞書がいくつも架蔵されている。この理由はまだ明らかでなく、今後の調査・研究の課題である。

本和蘭語辞書の調査・展示にあたり石川県立図書館、金沢市立玉川図書館近世史料館、財団法人成巽閣、金沢大学資料館の方々のご協力頂いたことに深謝します。

文献

1. 『古醫書目録』、金沢大学医学図書館、昭和51年。
2. 沼田次郎、片桐一男、「金沢藩壮猷館旧蔵蘭書目録稿」金沢市立図書館、金沢大学医学部図書館、石川県立図書館、蘭学資料研究会研究報告、第96号、1961年。
3. 『加賀洋書展』（金沢市立図書館）解説目録、1966年11月。
4. 『蔵書展金沢大学の源流』図録、金沢大学創立50周年記念展示実行委員会、金沢大学附属図書館、金沢大学資料館、1999年。
5. 「明治17年石川県編纂教育沿革史料第九本蔵書目録」金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。
6. 「旧石川県専門学校敷地並資産引継目録」、第四高等中学校、明治21年、金沢大学資料館蔵。
7. 「医学館書目」、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。
8. 第四高等中学校医学部「自明治21年度至明治23年度図書原簿」、金沢大学附属図書館医学部分館蔵。
9. 永積洋子、『18世紀の蘭書注文とその流布』（平成10）科学研究費補助金、研究成果報告書。
10. 松田清、『洋学の書誌的研究』臨川書店刊、平成10年、252頁。
11. 「硝石製法」壮猷館 米積浄記、金沢市立玉川図書館近世史料館蔵。
12. 板垣英治、「スロイスの講義から、植物学講義とオーデマン植物図鑑の関係」、『北陸医史研究』、67巻、1号、80頁、(2006)。

この他に次のインターネットウェブサイトの頁を参考とした。(国内分)

京都大学、長崎大学、香川大学、静岡県立図書館 等。

1.



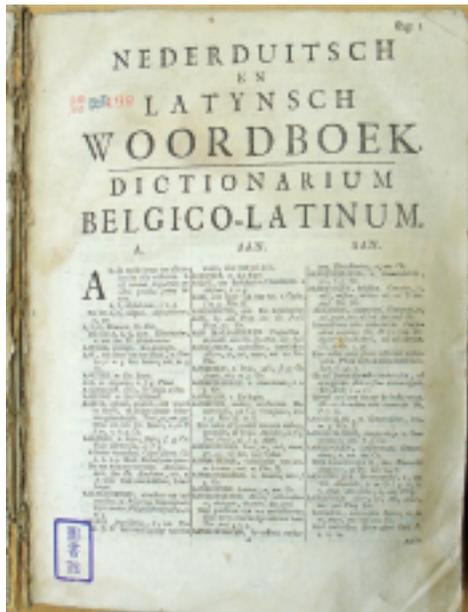
2.



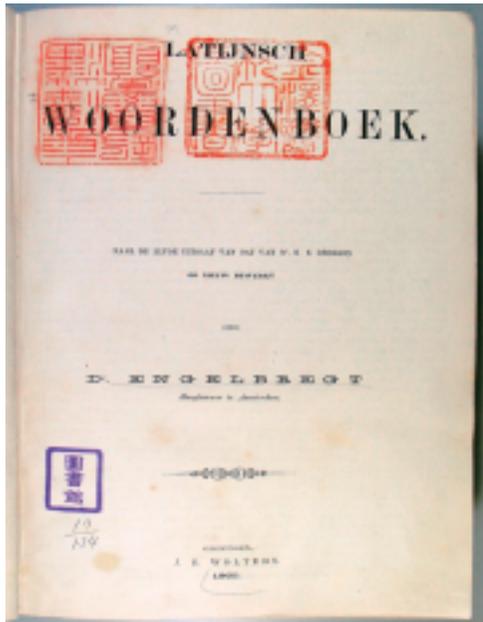
3.



4.



5.



6.



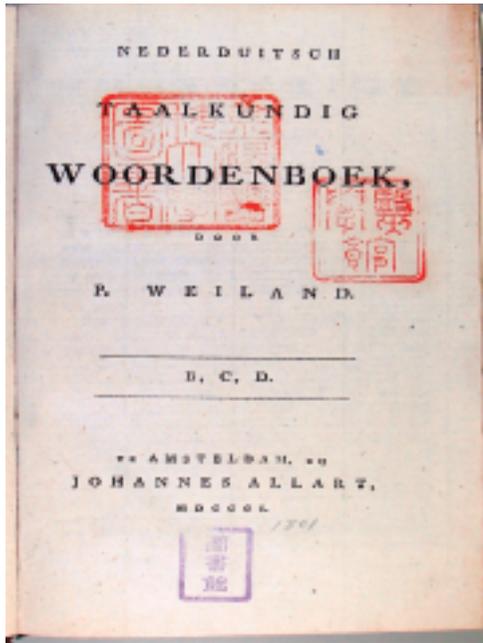
7.



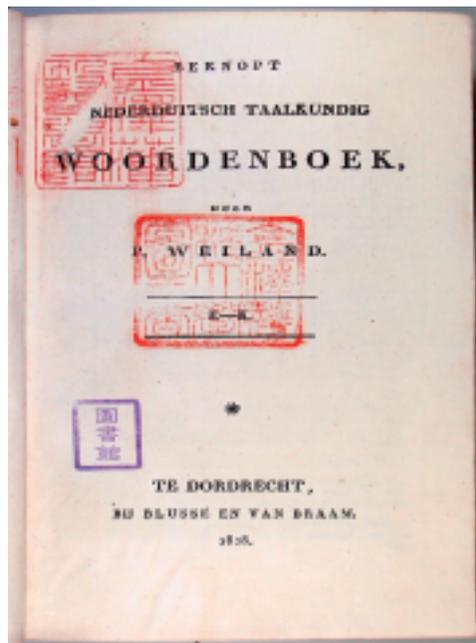
8.



13.



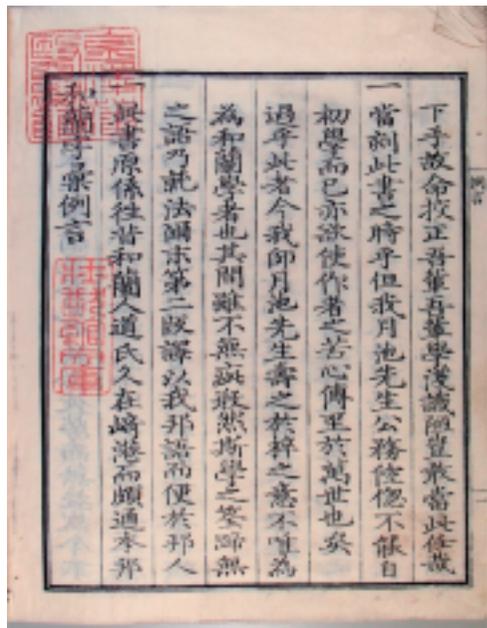
14.



15.



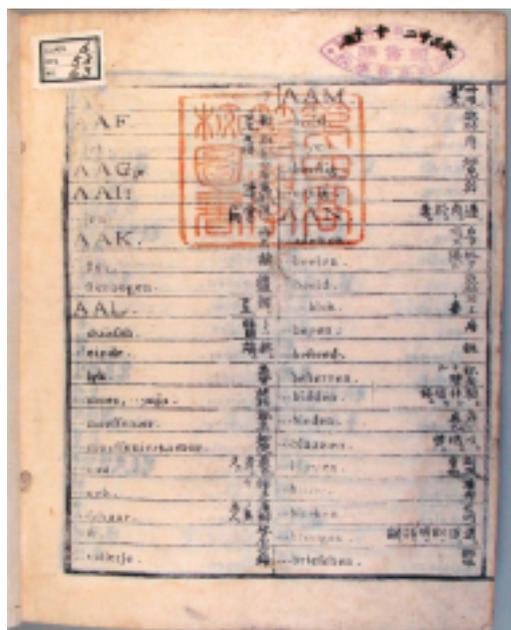
16.



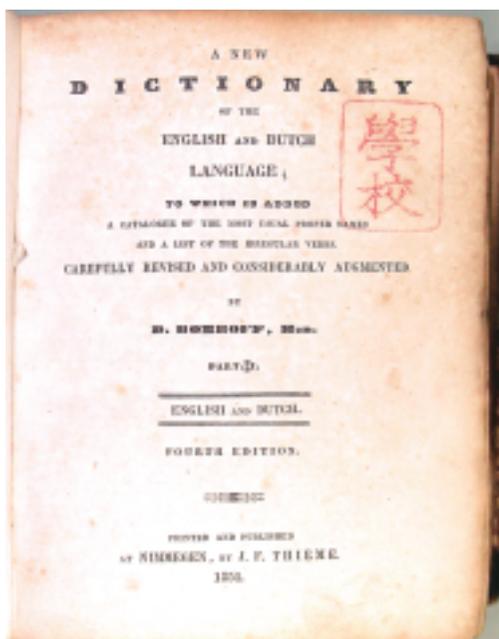
17.



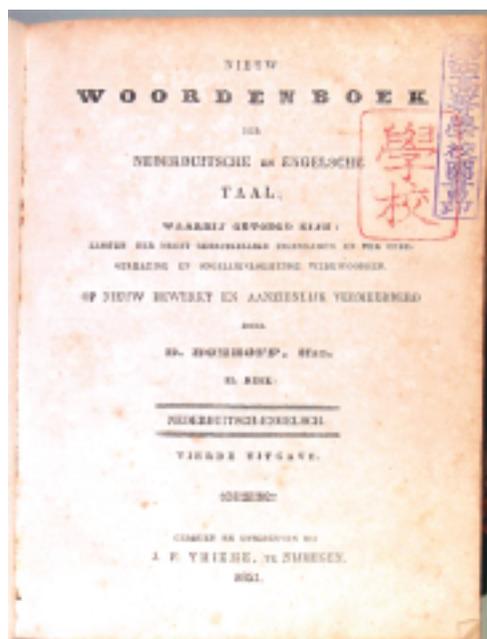
18.



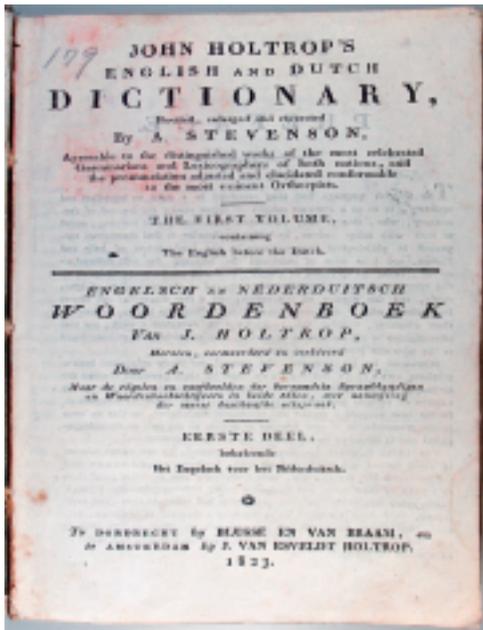
19.



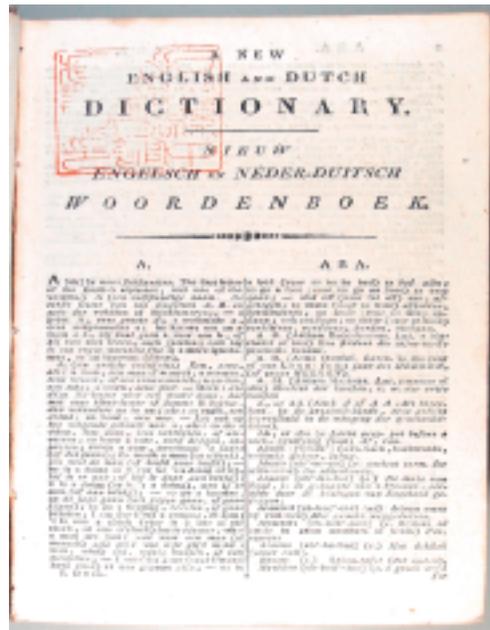
20.



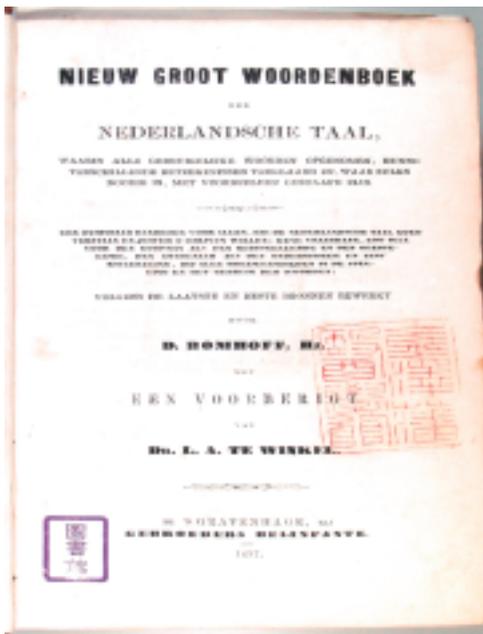
21.



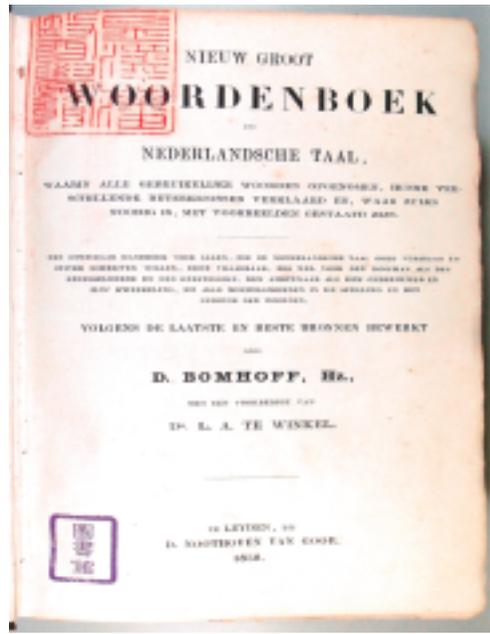
22.



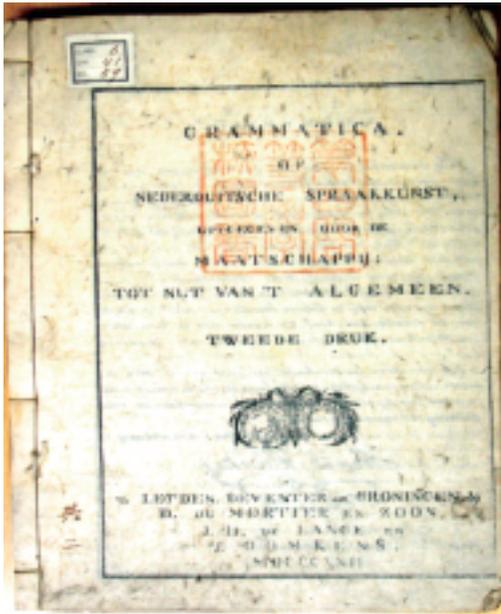
23.



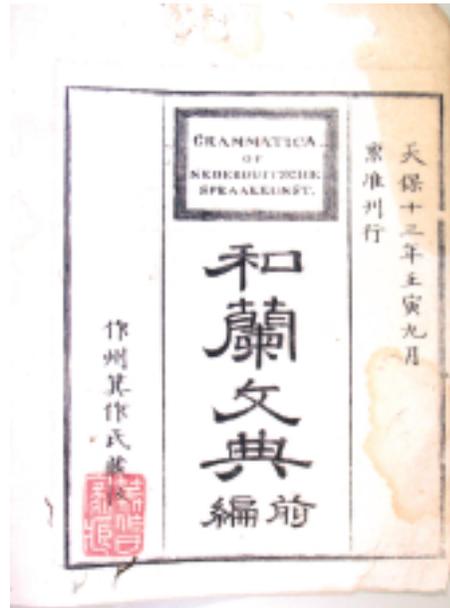
24.



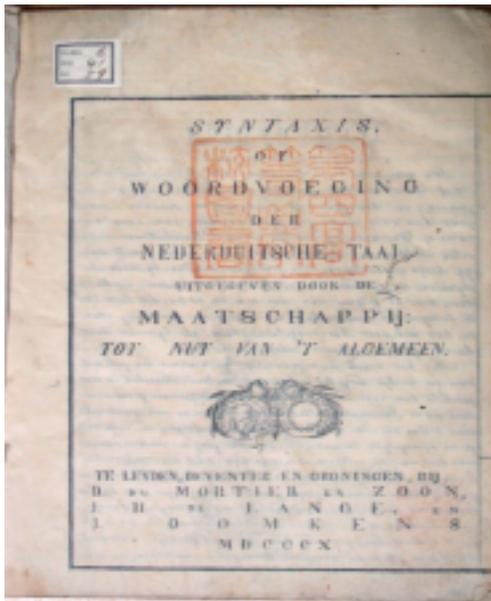
25.



26.



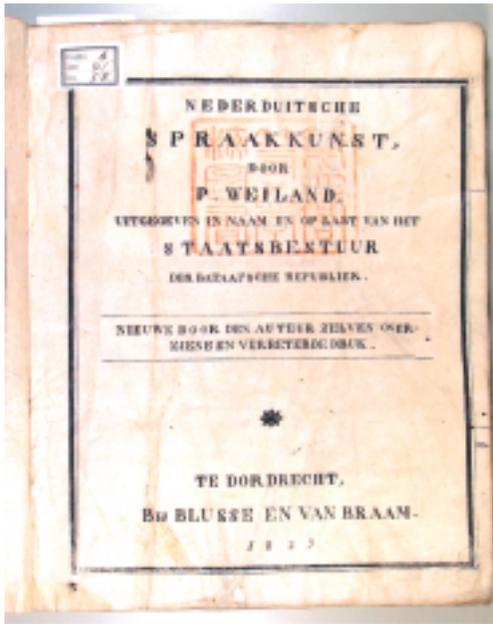
27.



28.



29.



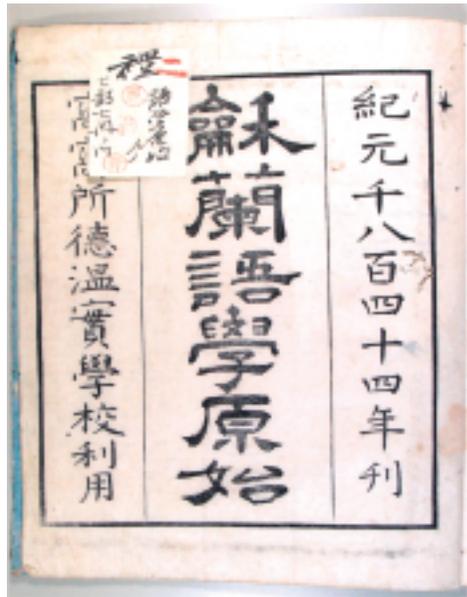
30.



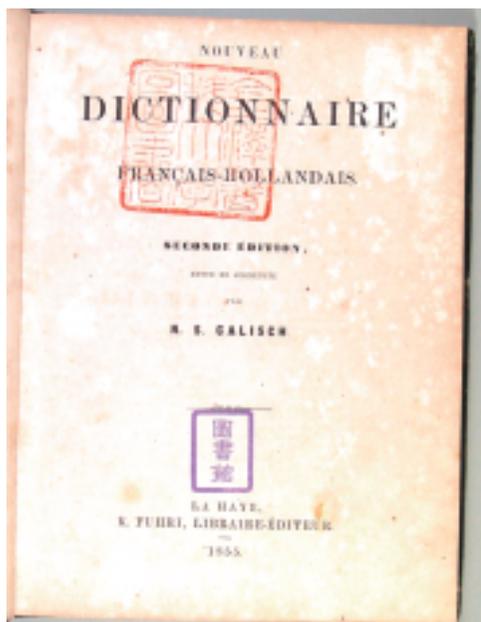
31.



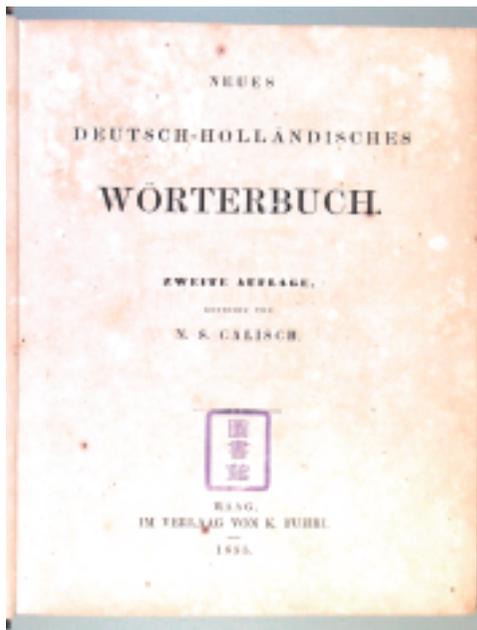
32.



33.



34.



35.



36.

